

オリエンテーション

1

【平成26年3月版】

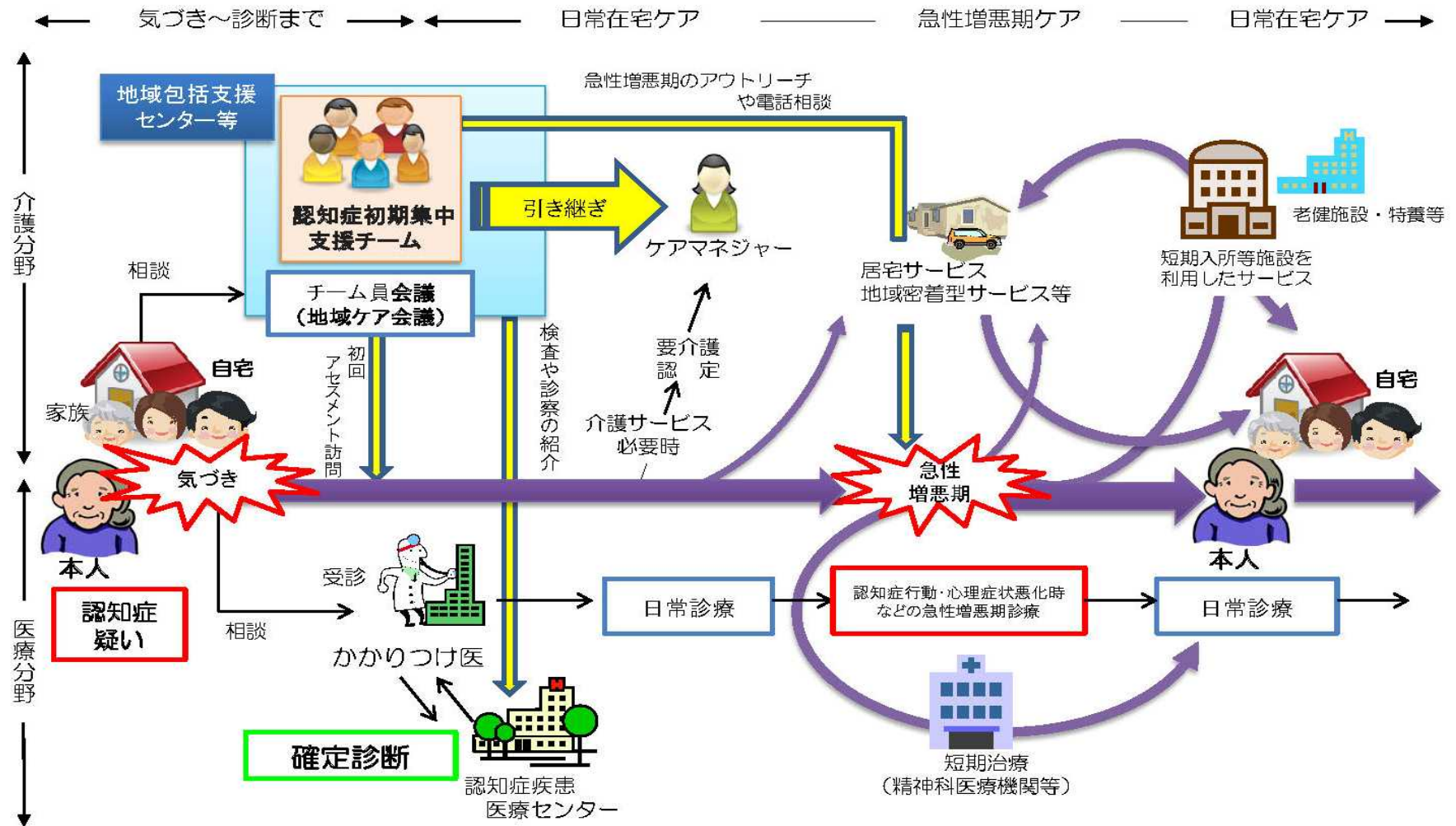
本日の研修内容

9:30~10:00	オリエンテーション
10:00~10:50	講義「医療との関係」
10:50~11:00	休憩
11:00~11:50	講義「生活支援」
11:50~13:00	昼食・休憩
13:00~14:15	グループワーク 「連携のあり方」前半 事例に基づく連携方法の確認
14:15~14:30	休憩
14:30~15:30	「連携のあり方」後半
15:30~16:00	「連携のあり方」発表まとめ

認知症多職種協働研修を行う背景について

標準的な認知症ケアパスの概念図

～住み慣れた地域で暮らし続けるために～



認知症の人と家族が置かれている 現状と課題

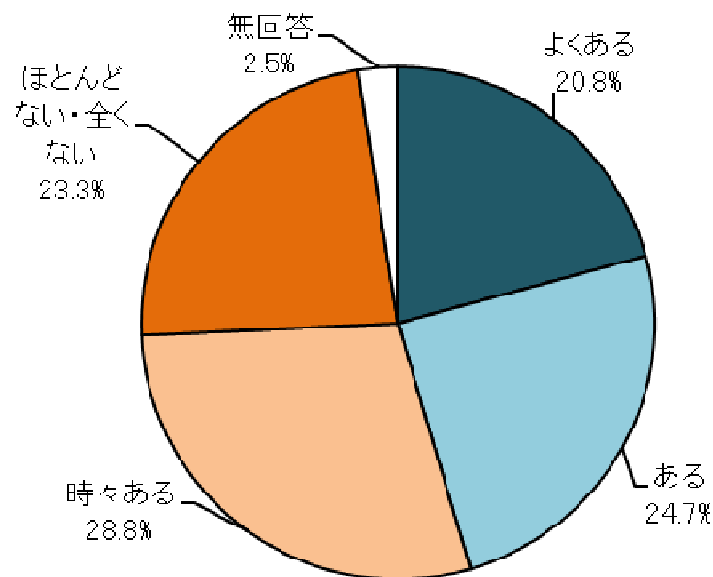
- 初期段階で適切な対応ができず、暴言、徘徊などの行動・心理症状が激しくなり、在宅生活が困難になる例が少なくない。
- 入退院・入退所など生活環境が大きく変化する場面において、総合的・継続的に関わる支援者が少ない。
- 認知症の症状の進行や身体合併症の発症・重度化などに応じ、多種多様な専門職が関わるため、多職種が協働し、チームとして支援に当たることが不可欠だが、必要な知識・技術の習得や関係づくりの機会の提供、支援チームに対する助言など、支援体制の整備が不十分である。

認知症の人への支援について 専門職の現状と課題

県では、職能団体の協力を得て、各専門職を対象に、他機関・他職種との連携・協働状況についてアンケート調査を実施。

対象者2,200名、回答数785名（回答率35.7%）（H24年度）

- 他機関・他職種との連携の有無
- 他機関・他職種との連携が円滑にできた事例から



- 相互理解
- 日頃の関係づくり
- 情報共有

多職種協働研修の必要性

他機関・他職種との連携が円滑にできる
こと



認知症の人と家族への支援の質の向上に
つながる



多職種協働研修の実施

研修の目的・構成・内容

研修の目的

○目的

認知症の人と家族の支援に携わる専門職に対し、多職種協働の『意義の理解』及び『必要な技術の習得』を図るとともに、連携構築のための『場』と『機会』を提供する。

○対象

認知症の人と家族の支援に携わる専門職
全ての方

研修プログラムの構成

- 1 医療との関係 講義（50分）
- 2 生活支援 講義（50分）
- 3 連携のあり方 グループワーク
事例に基づく連携方法の確認・発表
（165分）

**本日の研修が、多職種協働支援体制
の構築のためのきっかけづくりにな
るよう、実りある研修にしていきま
しょう。**

お願い

- 研修を受講するにあたってのお願い
- 携帯電話のマナーモード
- 喫煙について
- 会場での飲食について
- アンケートのお願い